

藤沢文化

巻頭文

「逃げ水」

藤沢市文化団体連合会会長 長田華鳳

東京オリンピックが五十六年ぶりに開催されます。前回の時は小学六年生でした。東洋の魔女や山下跳び、柔道のヘーシクなどテレビの前で観戦した記憶が思い出されます。

近年のオリンピックはスポーツの域を超えた超人の集まりのような感じがします。もちろんそれには生まれ持った才能に血の滲むような努力をしてのことだと思えます。しかし超一流の彼らとしても試合や競技会で自分の思い通りの結果が出せることは希なのではないでしょうか。思い通りと言う言葉から、昨年聞きましたNHKアナウン



サーの吉川精一さんの講演を思い出しました。

：「通りには表通りと裏通りがある。表通りは何の迷いもなく歩けますが、一端裏通りに入ってしまうと今自分のいる場所さえ分からなくなることがあります。これを人生にたとえてみると、人生はまさに思い通りになる道と思い通りにならない、いわば思い不通りの二本の道のようなものです。道に迷ったときは地図を開いたり人に尋ねたり、迷いながら目的地に行きつけるときもあります。どう頑張っても行きつけない時もあります。迷ったときに多くの人に耳を傾けることの大切さは、まさに人生と同じではないでしょうか」このような講演だったと記憶しています。見方を変えれば人生の道の全てが思い通りだったらこんなつまらない人生はないのではないかと、出られなくなるようなラビリンスだからこそ生きている面白さがあるのではと私は思います。

私は華道家としての専門教育を十歳から受けています。それはそれは厳しい稽古でした。今まで何百回と花を活け、作品を発売してきましたが、その内いくつ満足できる作品があったでしょう？その時はよくできたなあと感じても、後で写真を見ると不満だらけ、自分の実力の低さを痛感して毎回のようにより嫌悪に陥ります。時折、私はまだ本格的な稽古を始める前に先代(母)の師である宗家中島六窗氏の作品を思い出します。

私が七歳くらいの時、宗家が床の間に一本の雲竜柳を活け、じつと見つめています。私が、「何してんの」と聞くと、「柳の声を聞いとるんじゃ。」「うそだあ」と言うと、「聞こえないか？君も一生懸命やったら聞けるようになるかもしれんぞ。」最近、この意味が分かるようになります。花の音が聞こえるような気がします。でも、この宗家にはまだまだ遠く及ばない自分を実感する毎日。稽古では生徒たちに「芸術・芸道は逃げ水だよ」あそこまで行けば手が届くと思っても、いざそこまで行ってみると、その水ははるか遠くにあります。私達芸の道を志すものにゴールはありません。毎日ひたすら自分と向き合い少しでも前進できるように己

を叱咤激励しなければいけません。正に思い不通りです。

現代は自分を売り込もうとするために自己中心的な考えをよしとする傾向があります。一方、昨年書きました「おもてなし」の精神の根本は他者を如何に受け入れるかだと思います。人と相まみえたとき、粗を拾うのは簡単です。ではその人の良さを認められますか？人が自分の思い通りにならなかったら、耳を傾けその人の声を聞き、その人の立場で考えられることができたら、自己主張しているばかりではぶつかります。だからと言つて受け入れてばかりでは自分がなくなくなります。

夏目漱石は「草枕」の中で、「智に働けば角が立つ、情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。」「どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来ると百年以上昔から人間と言うのは何と進歩がないことか。住みにくい世の中だからこそ漱石の言う芸術で、そこを埋めればいいと思います。争いのない世界にするには芸術こそが必要なのではないでしょうか？私達文団連が文化のリーダーとなれば、近い将来藤沢市が文化都市の旗頭となれることでしょう。責任は重大です。(笑)

人の和を広げる郷土愛 あふれる藤沢の伝統文化



「藤沢文化」56号発行、

誠におめでとうございます。また、藤沢市文化団体連合会の皆様におかれましては、本市のさまざまな催し事でご活躍いただき、長きにわたり文化振興におきまして、多大なるご尽力いただいておりますことに、改めて心より感謝申し上げます。

藤沢のまちを大切に思う先人たちからの伝統文化であります、邦楽、民謡民舞、吟詠、茶道や華道など伝統芸能や芸術活動を継承された皆様におかれましては、それぞれの伝統を未来へ繋げる積極的な活動を継続していただいておりますことを表します。

藤沢市長 鈴木恒夫

沢づくりを進めているところでございますが、伝統文化は、市民の心の豊かさやゆとりを与えてくれる大変重要なものがございます。東京2020大会を契機に、本市の伝統文化をさらに発展させ、それを新たなレガシーとして次世代へ継いで行くためにも、藤沢市文化団体連合会の皆様のお力添えを欠くことはできません。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

「日本の伝統文化を世界に」



藤沢市文化団体連合会、藤沢雅楽協会

藤沢市教育委員会 教育長 平岩多恵子

が新たに加入され、さらに充実されたことをご喜び申し上げますとともに、みなさまには、さまざまな活動を通して、本市の文化振興にご尽力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

とりわけ、昨年のセーリングワールドカップシリーズ江の島大会の際には、選手や関係者の方々を華道や書道等の体験会で温かくおもてなしいただきました。参加された方からは、日本の伝統文化に触れることができ大変好評だったと伺っています。また、今年一月に行われた湘南

せ、それを新たなレガシーとして次世代へ継いで行くためにも、藤沢市文化団体連合会の皆様のお力添えを欠くことはできません。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

「ワンチーム」 さらなる「みら財」の未来に向けて



公益財団法人 藤沢市みらい創造財団理事長 石井恒男

行誠におめでとうございます。

さて、昨年、ラグビーワールドカップが日本で開催され、人気の中心となった日本代表チームがラグビーの魅力のほかに流行語大賞にもなった「ワンチーム」という言葉を残してくれました。日本代表チームと言っても、三十一人のメンバーは生まれた国や言葉、肌の色や目の色、様々に異なるバックボーンを持った選手達でした。

このことを私達みらい創造財団に置き換えて考えると、財団の仕事は子ども青少年の健全育成、スポーツや芸術文化の普及振興などまさに多様です。財団では、二年前から職員が「みら財」という組織に誇りを持てるよう、「みら財」の存在意義を感じられる風土、文化を育てることを「内なるCI(コーポレートアイデンティティ)」として取り組んでいます。今年、設立一〇周年という大きな節目を迎える「みら財」が、さらなるこの先の二〇年、二〇年の未来に向けた成長のため、まさに「ワンチーム」として高みを目指して組織文化を作り上げていきたいと考えています。

多くの選手や関係者の人たちとさまざまな交流を図っていきたくて、チームとしての文化を作

お力を貸してくださいませようよろしくお願ひします。みなさまのますますのご活躍を期待しています。

第四十回

芸術文化展

文化団体連合会である美術家協会、書道協会、華道協会三団体の会員による芸術文化展が十月二十二日から二十七日まで開催されました。

移転された市民ギャラリーで初めての文化展は展示方法に最初は不安があったが各協会がパランスよく展示されており、見応えある素晴らしい作品ばかりでした。同じフロアーに図書館があるということで鑑賞者も多いうように感じました。

駅前ギャラリーということもあり外国の方も数人お見えになり日本の伝統文化に感心が高いようで、質問も多くありました。言葉の壁があり身振り手振りで説明したがよく理解ができたようでした。これからは会場に語学が堪能な案内者が必要であることを感じました。

最終日はギャラリートークが開催され、各協会の会員より作品の意図や製作工程や見どころまで詳細に講評がありました。参加者からも質問が多く各会員の講評の持ち時間が足りなくな

るぐらいで、作者の思いが充分伝わり参加者も満足したようです。この芸術文化展は文化都市藤沢を象徴する展覧会であると感じました。



(八ッ橋博美 記)

第三十二回

藤沢市伝統芸能発表会

十二月十五日(日)、藤沢市民会館にて、十時より開催されました。好天に恵まれ多数の方にご来場頂きました。

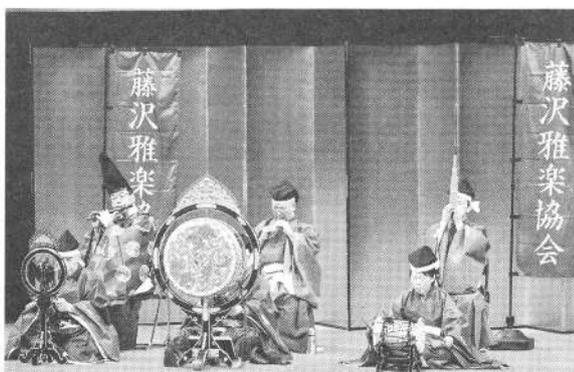
十時「開会のことば」で始まり、謡曲協会「通小町」で演奏開始。邦楽協会の長唄「連獅子」の後、式典に入り、主催者 石井藤沢市みらい創造財団理事長・長田藤沢市文化団体連合会会長の挨拶、ご来賓の鈴木市長・加藤市議会議長の祝辞を賜り、平岩教育長・神原藤沢市生涯学習部長・市村教育委員の御紹介、文団連の各団体代表者の紹介で式典終了し、吟詠連盟の「自詠」他七曲を吟詠し、民謡民舞連合会の合唱・三味線合奏・踊等の後、日本舞踊協会の箏曲・琉球民謡・長唄による日本舞踊があり、三曲協会の「千鳥の曲」「屋形船」の後、第二部「故郷をたたえて」入る。

今回初参加の雅楽協会の「平調五常楽急」他を演奏。引き続き、謡曲協会の「盛久」。邦楽協会の琵琶「龍の口」。吟詠連盟の「故郷をたたえて」他六曲、続いて

三曲協会の「秋の七草」尺八琴古流本曲三谷菅垣の段、民謡民舞協会の踊・三味線合奏・合唱等演奏。

ファイナーレは、民謡民舞連合会の踊「遊行ばやし」を会場の皆様と一緒に踊り、賑やかに締めくくりました。

第二展示集会ホールでは、茶道協会による「呈茶席」が設けられ、多数の方々にご利用され、好評でした。



(森中志水 記)

第31回 文化講演会

「認知症70万人時代を超えるにあたり地域文化を考える」

日本は世界中で経験したことのない高齢化社会のトップを走っています。

九月十五日、「敬老の日」に加藤忠相先生をお迎えして文化講演会を開催しました。

加藤先生は、藤沢で生まれ育ち、地元で老人介護の仕事をしてきています。その施設には鍵はなく、木々に囲まれた敷地には塀がありません。中庭を地域の人達が声を掛け合いながら通り抜けて行き、子供達の遊び場にもなっています。利用者が地域の人々と一緒にいる公園の花壇の手入れや清掃も、社会の一員として必要とされているという自信になっっているのではないのでしょうか。

「何かあつては困る！」リスクマネージメントは誰のため？ 介護とは自分らしく生きていくことを一緒に考え、寄り添い、支えていくこと。「自分らしい当たり前の生活」を送る幸せは信頼関係の上に成り立ちます。加藤先生は客席の前に立つて話され、相手と向き合い、目線を同じにする大切さを私達に教えてくださいました。

(間瀬游泉 記)

第六十九回 藤沢市展

藤沢市展は、一九五一年から現在まで七〇年もの長期にわたり美術を始めとして書道・写真・華道による創作作品の発表の場としての芸術文化展です。

毎年約七〇〇点もの素晴らしい作品が出品され、公募される作品も年々増し、ますます高度な見ごたえのある作品が多く、会場は活気づいております。

又、若い方の出品も多く見られる一方、各協会は指導者の高齢化にともない会員減に苦難しております。入場者につきましてもやや減少さ

みで検討していく課題ではないかと思っております。宣伝方法や、審査方法、会場等々改善し、魅力ある展覧会にしてご来場いただけるよう願っております。最終日に市民会館において、市長はじめ来賓のご臨席を賜わり入賞者の表彰式並びに祝賀会が盛大に行なわれました。

二〇二〇年の今年、東京オリンピック、パラリンピックのセーリング競技会場となる江ノ島には国内外から多くの皆様が来られます。その折には、文化都市藤沢として日頃の研鑽が発揮出来ますよう、文化団体を始め各関係者、市民が一体となって芸術文化向上をめざして進んで行きたいと思っております。

(木村明光 記)

お願い申し上げます。

第十五回 春の野点と邦楽のしらべ

二〇一九年四月十三日(土)に第十五回「春の野点と邦楽のしらべ」が市民会館第二展示集会ホールに於いて開催されました。式典では、主催者側より文団連長田会長が挨拶し、ご来賓として松下市議会議長からご祝辞を賜りました。神原生涯学習部長、横田文化芸術課長、土屋財団専務理事、宇佐美美泉文団連顧問のご出席を頂きました。

二〇一九年四月十三日(土)に第十五回「春の野点と邦楽のしらべ」が市民会館第二展示集会ホールに於いて開催されました。式典では、主催者側より文団連長田会長が挨拶し、ご来賓として松下市議会議長からご祝辞を賜りました。神原生涯学習部長、横田文化芸術課長、土屋財団専務理事、宇佐美美泉文団連顧問のご出席を頂きました。



(田口迪子 記)

伝統文化体験プログラム

昨年の八月二十五日に江ノ島のヨットハーバーでセーリングワールドカップに参加する選手を対象とした書道と華道の体験イベントを開催しました。歓迎レセプションの側道のテント、夕刻という劣悪な環境での開催でしたが、一時間半で五十八名という多くの選手に参加して頂きました。参加した選手からは大変感謝されたことは言うまでもありません。

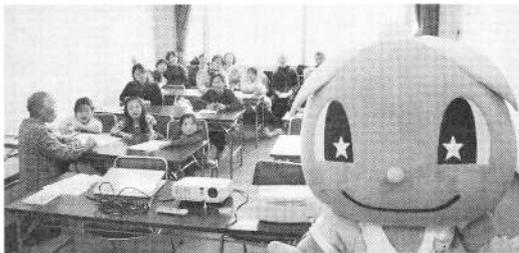
また、十一月三日の湘南台公民館でのワクワク体験ひろばは、開催時期の関係でしょうか予想ほどには参加者が少なかったことは残念でした。今年の開催は公民館祭の日に湘南台文化センターのこども館での開催を考えています。これらの事業の大成は関係各位のご協力の賜と心から感謝申し上げます。オリンピックを前に今後も多くのイベントが開催されます。これを風化させることなく文化都市として一層の飛躍を目指しましょう。

(長田華鳳 記)

江の島で華道体験



ミラゾウ君と一緒に詩吟



皆で粘土工作



文団連活動だより

藤沢雅楽協会

藤沢雅楽協会は、昨年、文団連に入会させて頂きました。構成は境川楽所、雅狼の会と個人の雅楽演奏家で合計五十名が所属しております。

雅楽の世界で藤沢と言えば、藤沢にお住まいでした現代の笙の第一人者であり、元・宮内庁楽部楽長の故多 忠磨先生、日本雅楽会の初代会長の故押田良久先生がおられた場所です。(故押田良久先生は

雅楽のピッチをA(ラ)＝430Hzと決めた方でもあります)

ご恩返しの意味も含めまして、約二十年間、藤沢で地道な雅楽活動(演奏と指導)を行って参りました。今更に藤沢市で活動して良かったと思います。それは市民の皆様が文化レベルが高く、雅楽への関心も高いこと、そして、昨年十二月の伝統芸能発表会では各先生方のレベルの高さに驚きました。全国でもハイレベルな文団連に加盟できましたこと、誠にありがとうございます

藤沢三曲協会

当協会の活動は、「藤沢市文化団体連合会」との協力関係でやらせて頂くものと、三曲協会独自の活動があります。

- 一、「文団連」との関係では、
- 一、「春の野点と邦楽のしらべ」
- 二、「ワクワク体験ひろば」
- 三、「伝統芸能発表会」

に参加させて頂きました。

「春の野点…」では子供達に「浜辺の歌」をひいて貰い、後「さくら」の体験をお客様と行いました。「ワクワク体験…」では湘南台公民館と多摩大学の両方で行いました。公民館では親子

ございます。

今後は、他の協会様をお手本に精進を続けて行くとともに、他の先生方とコラボ出来ることを夢見て頑張りたいと考えております。

昨年の活動報告として、約十八年続けている遊行寺様イベントでの雅楽演奏に加え、一月二十六日藤沢市マラソン前夜祭(海外招待選手)にて雅楽演奏。十月三日藤沢市国際交流フェスティバルにて雅楽体験講座を行い、出店の方とも交流して十月十七日の湘南日韓協会に呼ばれ雅楽演奏。十月三日さいか屋藤沢店様にて雅楽ミニコンサート。十月十五日藤沢市伝統芸能発表会

連れが目立ち、これからも続けるべきだと思いました。

多摩大は、前年藤沢へワクワク体験をしに来られた学生さんの希望で実現したもののようです。

- 「三曲協会独自の活動」では、
- 令和元年十一月十六日に
- ◎第47回「藤沢三曲演奏会」

を行いました。参加者百十一名で、小中学生は十一名で、毎年増加してきております。

◎三曲演奏と茶の湯のつどい
72回・73回と終ったところになりました。

◎湘南中学校へ箏の授業の手伝いに五名の先生方が行ってお



(大越多津能 記)

にて雅楽演奏をさせて頂きました。また、今年お待ちに待ったオリピック・パラリンピックです。各協会の先生方と協力して盛り上げて参ります。



最後に藤沢文化団体連合会の先生方には、今年度初参加ということもあり、会議やイベントなどで親身なアドバイスを頂き、大変助かりました。本当にありがとうございます。今後とも(指導)鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。(松水耕作 記)

藤沢日本舞踊協会

藤沢日本舞踊協会として独自の活動を始めて二十七年が経ちました。九月二十一日には小ホールで第十五回公演を行いました。日本舞踊には沢山の流派がありますが、協会では流派の壁を越え、皆さんが協力して活動しています。御存知のように日本舞踊も高齢化や会員の減少に悩んでいます。かつてはお祖父ちゃん、お祖母ちゃんや御両親に連れられて入門されるお子さんが多くいました。今は着物を着ることが無い、日本舞踊を見たことが無い親ごさんが増え、おさらい会もお子さんの入門も

減っています。学校でもダンスは教えるけれども日本の舞踊は教えないので馴染みがなく、若い方がとても減少しています。けれどもやと自由を楽しめるようになった年配の方が元気に楽しんでいらっしゃる姿もあります。

日本舞踊は見かけとは異なり、意外とハードなものです。常に中腰を求められ、姿勢を正し、足腰への負担は大きくなりますが、それを和風エアロビクスだと言って体操がわりに楽しんでいらっしゃる方もいますし、様々な役の違う人物になりきることを楽しむ方もいます。

役柄によって歩き方も違ってきます。男なら商人・侍・物売り。女なら、やはり商人・町娘・芸者。武家の婦人と歩き方で役を表現できます。時代や役柄により髪型や衣装も違うので、その変化を表現することが大切になります。又古典舞踊の歌詞には、江戸時代の風俗、習慣、行事などが唄いこまれ掛けことが多く、深く見るととても面白いものです。当時の生活習慣や風情を理解し、視点を変えて楽しんでいただけると、日本舞踊の楽しさをおわかり頂けるのではないのでしょうか。

(花柳小喜代 記)

藤沢市美術家協会

毎年恒例の美術家協会の会員展が九月二十四日～二十九日まで開催されました。これまで大きく異なる点は、市民ギャラリーが移動されたことです。

南図書館と同一フロアであることや、レストラン街へ上がる途中にギャラリーが見えること、駅近商業施設の中であることなどにより、例年に比べ五〇〇名ほど来場者が増加しました。また、ギャラリー内は明るくガラス張りの部分があることで、展示に新鮮さを感じることができ、よい会員展となったと思います。これも新ギャラリー開設に関わった各方面の方々、新会場で展示担当をされた先生

藤沢市謡曲協会

令和元年十一月「湘南台公民館」に於いて開催された「湘南台ワクワク体験ひろば」に於ける「謡曲」の紹介は以下の通りでありました。

皆様「お能」と云う古典芸能をご存知ですか？シテと呼ばれる主役が面(オモテ)と称する仮面をつけて、脇役と共に笛・鼓・太鼓等を従えて、専門の能舞台で舞い・謡う古典演劇の事ですが、この演劇の「歌詞」の

方のご尽力の賜でもあります。

一方で、ギャラリーの天井が以前より低く、大作が窮屈に見えたり、壁の設けが美術品の見映えをやや損なうような箇所もあり、美術館に準じるような造りを持つていたルミネの市民ギャラリーを思うと、さらなる工夫が求められるところです。

今年の九月に開催される会員展は、美術家協会70周年にあたる記念展となります。新会場での問題点を克服し、よりよいものにしていきたいと考えております。

ただ、市民ギャラリーの将来については、現時点では不安の声も聞えてきています。このギャラリーは現商業施設の都合で、10年以内にはまた移転の運

命にあるとのことです。

先日行われた市の説明では、市民会館建て替え事業の施設複合化の一環として、市民ギャラリーもそこに入る予定とのことでした。しかし、どのような内容の施設となるかは、来年度検討される基本構想で決まるようです。

十二月に美術家協会の総会が行われ、文化都市藤沢にふさわしい展示会場(美術館)が市民会館建て替えの暁には実現することを一丸となつて求めていくことが決議されました。

このことは、文化団体連合会としても同じ想いであると伺っています。藤沢文化にふさわしい文化拠点の実現に文団連の皆様と歩みを共にしていきたいと思ひます。(川島 淳 記)

藤沢市茶道協会

流派を超えて相互の親睦を計る茶道協会は、次世代に文化の伝承ができませんようにとの願いから「第六回ワクワク体験ひろば」に、三月三十日・三十一日に市民会館和室にて茶道教室を開催しました。子供自らの手で茶筌を振って、初めてお茶を点てる子も、回を重ねて楽しみにして来る子もあつて、自分の点てたお茶に「美味しい！」と笑顔が見えました。

五月五日は、みらい創造財団主催のチャリティーの茶会が、今年も旧近藤邸前の芝生で青天の下、親子連れや夫婦連れで野点のお茶を楽しんで頂きました。



旧近藤邸前芝生 チャリティー茶会

十一月三日は、茶道協会研修会として、市民会館大ホールに於いて、甲賀市MIHOMUS EUM館長、熊倉功夫先生に依る「宗旦の茶の湯」についての講演を伺いました。「宗旦」に徹し、祖父利休の佗茶を完成させたというお話でした。

十一月三日は、茶道協会主催第三十一回茶会を遊行寺にて開催し、大日本茶道学会甘糟恵樵・裏千家徳江宗代・表千家寺嶋宗雅・各先生の心尽しのお席に、お茶会日和も相和して、二〇余名のお客様をお迎えしました。茶道部の中学生、高校生も大人の中に入って緊張の中、茶道の雰囲気を読んでいました。あたたかな一日、各席主のご趣向を味わいつつ、日本文化が次世代に継承してゆけますよう、茶道協会として各流派力をあわせて尽力してまいりたいと存じます。(富田誠仙 記)

部分だけを「謡曲」と称し、独立した芸能として普及研鑽が積まれているものであります。謡曲協会は古典芸能の維持・発展に努めて参ります。

- 「本年度の活動結果」
- 定期勉強会(藤声会活動)
- 藤沢公民館「済美館」にて奇数月第二日曜日に発表会実施
- ワクワク体験ひろば
- 三月三十日・三十一日藤沢市民会館にて実施
- 本年も謡曲普及集団「鶴亀座」を招聘した。
- 「春の野点と邦楽の調べ」
- 四月十三日仕舞「高砂」・連吟「籠」を披露
- 謡曲協会「春の別会」
- 五月十二日於・藤沢市民会館
- 交流会の実施
- 六月九日鎌倉地区謡曲会と横浜能楽堂にて交流謡会実施
- 藤沢公民館祭り
- 十月二十日於・藤沢公民館
- 藤沢市謡曲大会
- 十月二十七日於藤沢市民会館
- 隅田川謡曲大会
- 十一月九日 鶴亀座との交流



第53回「藤沢市謡曲大会」のひとつ

のため江東区文化センターで実施された謡曲大会へ出演
● 藤沢市謡曲大会
● 十二月十五日於・藤沢市民会館
統芸能発表会
(中谷哲夫 記)

藤沢華道協会

昨年の藤沢華道協会は、一月の新年総会から、ワクワク体験ひろば・藤沢市展・春のいけばな諸派展。神奈川県華道展・日本文化イベント・芸術文化展・藤沢宿交流館・オリンピックク関連等の行事を無事終わることが出来ました。

この一年を振り返って最大の出来事は、皇位の継承と、それに伴う元号の改元です。日本のみならず世界一八六か国の元首などの祝福を受け、つつがなく皇位が継承されましたことは誠に廣賀の至りで、このような歴史的節目に巡り会えた幸いに感謝です。

藤沢市邦楽協会

藤沢市邦楽協会は、現在琵琶、長唄、端唄俗曲で構成しております。

四月には春の野点と邦楽のしらべに参加、演奏した後、和やかな雰囲気のもとお抹茶と小さな可愛いお菓子でお点前を体験し、十月四日の合同演奏会では、琵琶は「恩讐の彼方へ」これは文豪菊池寛の名作を琵琶歌にしたもの、「白虎隊」は戊辰戦争での官軍と会津藩主の十五・十六才の白虎隊の少年の悲しいお話、「雪晴れ」は赤穂浪士が

一方、この一年の現実生活を最も記憶に残るのは、やはり異常気象です。歴史を振り返ると、昔から異常気象は多かったことがわかります。元号は大化元年から今日までの一三七四年間に、二四八回行われてい

ます。改元は吉事や凶事が発生したときなどに行われることが多く、断然多いのは戦乱、疫病の流行、天災など「よくないこと」を消滅させて、新しい世を開くためのものです。特に多かったのが天災に伴うもの、地震、旱魃、台風、洪水などです。江戸時代の四大飢饉です。そのたびごとに、十万人を超える死者が出ています。江戸時代以前にも、同じような天災によって甚大な

被害が発生していたことも知られています。改元の話が天災の話になってしまいましたが、昨今異常気象が続いていることに鑑み、その原因はともかく、過去に我が国は今より大きく深刻な天災に何度も見舞われていること、そのたびに国家の上下が一体となって危難を乗り越えてきたことに思いを託し、勇気をもって令和の新时代に臨みたいものです。野辺に咲く小さな花も蕾の中で夢と希望を、徐々に膨らませ刻を待ち、花を咲かせ実を結びます。後世、令和の改元がめでたい時代の改元であったと言われるように念願してやみませ

（大庭操峯 記）

被害が発生していたことも知られています。改元の話が天災の話になってしまいましたが、昨今異常気象が続いていることに鑑み、その原因はともかく、過去に我が国は今より大きく深刻な天災に何度も見舞われていること、そのたびに国家の上下が一体となって危難を乗り越えてきたことに思いを託し、勇気をもって令和の新时代に臨みたいものです。野辺に咲く小さな花も蕾の中で夢と希望を、徐々に膨らませ刻を待ち、花を咲かせ実を結びます。後世、令和の改元がめでたい時代の改元であったと言われるように念願してやみませ

辛苦の末、吉良邸に討ち入り本懐を遂げ晴れくと泉岳寺に向かう時の雪晴れの様子、「道成寺」は安珍に裏切られた清姫が、大蛇となつて鐘もろとも焼き殺した後のお話です。

長唄は「鞍馬山」この曲は、天狗を相手に剣道修行をする牛若丸後の義経のお話、大薩摩の手が沢山出て来ます。「吾妻八景」江戸の名所風物を唄ったもので、「佃の合方」「楽の合方」と二方あります。

端唄「東雲節（しのめ節）」「さのさ節」「からかさ」「かほれ」「きりぎりす」「六段ぐずし」この曲には箏曲六段が十四小節入っています。「なすととかほちゃ」略して「なすかほ」は俗曲で幕末に江戸で流行し、明治になって又復活しました。「夕暮」は隅田川や待乳山あたりの夕景色を詠んだもので、端唄の五指に入るほど有名な唄です。文政三年の夏に五代目松本幸四郎は五代目岩井半四郎らと座を組んで上方に上り、生粋の江戸芸を見せました。江戸の雰囲気を出す為この唄を用いたようです。

十二月には、藤沢市伝統芸能発表会に参加いたしました。

藤沢市民謡民舞連合会

藤沢市民謡民舞連合会の本年度の活動状況は、例年どおりの行事が行われました。

まず、十二月には文化団体連合会の、第三十二回藤沢市伝統芸能発表大会に、吉美会・翠雄会・春良美連合・岩藤会・君代会・吉村連合会・竜成会・七会派が出演し唄、踊、合唱の舞台発表を行いました。八月には第三十九回民謡コンクールが小ホールで行われ優勝、準優勝、入賞等の発表がありました。

優勝者は九月に行われる民謡民舞研究発表大会に、唄声が披露される予定です。

二月に第二十八回民舞踊発表大会が小ホールで行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となりました。



（藤本三音和歌 記）



あゝ井伊直弼・彦根城」春良美連合



大慶の舞」岩藤会

た。

一月には新年会があり、各会派の会員同士が歓談し、カラオケやダンスに興じ楽しい時間が流れました。九月には第五十回民謡民舞研究発表大会が、大ホールに於いて行われ、大勢の会員が民謡・民舞を披露し、会場には一日中民謡の曲が流れて、にぎやかな時間が過ぎてゆきます。

又、子供コーナーでは、可愛い子供達の踊りと唄と、三味線があります。

又、次回も是非会場においていただき、ご声援をお願い致します。

（青柳登喜男 記）

藤沢市吟詠連盟

詩吟は日本の古典芸能の一つで、漢詩や和歌に節をつけて詠います。腹式呼吸で思い切り大きな声を出して気持ちよく吟ずることは健康によく、心は爽快、ストレスの発散にもなります。

昨年十二月藤沢市伝統芸能発表会に私たち詩吟神風流神仙吟詠会は「わが故郷を讀えて」という題で、四つの漢詩と三つの和歌を吟詠しました。藤沢には全国に知られた観光名所江の島があり、ここから天気の良い日には富士、箱根、丹沢の山々や

伊豆半島などが一望できます。始めは美しい富士を眺望して雄大な姿を讀えた元田東野の和歌「晴れてよし」と柴野栗山作「富士山」、次は箱根、伊豆に目を向け源実朝の和歌「箱根路を」と佐川陽風作「寒山に遊ぶ」です。寒山は秋の箱根山をいい、作者は神風流の先輩です。

続いてわが故郷の吟詠を三つ。最初は太宰春台作「稲叢懐古」、稲村ヶ崎の砂浜を見て新田義貞軍が北条高時を破った時を懐古。第二は菅茶山作「絵の島」、作者が江戸から福山(広島県)へ帰国の時、江の島を訪

れ瀬戸内海の眺めがこの地には及ばないのは富士山が海を隔てて全身を露わしている景色だと詠います。

最後は服部南郭作「江の島稚児ヶ淵」です。相模湾の波が岩を洗う景観は勇壮で、富士の眺めも素晴らしく和歌「稚児ヶ淵」とともに吟じました。この詩「風濤石岸鬪鳴雷直樓臺萬丈廻……」が刻まれた小さな石碑が江の島稚児ヶ淵にありますので、一度探して観賞してみてください。

(山田神識 記)

藤沢市書道協会

本協会の一年は、会員の交流と親睦を深める新年会で始まります。そして、例年、藤沢書道展、藤沢市展、藤沢市芸術文化展に会員が力作を出品します。

去年はギャラリーが湘南GATEへ移転し、展示等にも新たな課題が出てきましたが、会員の協力で乗り越え、多くの方々にご来場いただき、大変感謝しております。

最近では市展に高校生の秀作が数多く出品されるようになり、心強いかぎりです。七月の学生書道展にも、幼児から中学生までの生き生きとした作品が多数

出品され、ご家族で参観していただき、和やかな賑わいを見えています。幼児から高校生まで若い人たちにも書道文化の良さを伝え、書の愛好家を育てていく一助として、本協会も力を入れていきます。

秋には会員が期待している研修会と旅行を隔年で実施します。昨秋は講師平出揚治先生より、「文房四宝よもやま話」のご講演をいただき、貴重な端溪「夔龍硯」「半碑硯」を鑑賞しました。二年に一度開催される湘南書道展は、茅ヶ崎市・寒川町との共催行事で、会員相互に刺激し合える良い学びの機会です。ワクワク体験ひろばや伝統文



化体験等の行事に協力したり、学校支援書道ボランティアとして活動したりしながら、目ざす書道を追求する自己研鑽に励み、伝統文化の継承・創造に貢献したいと願っております。

(本川清泉 記)

新年賀詞交歓会

本年度の藤沢市文化団体連合会新年賀詞交歓会は一月二十五日(土)市民会館「まつの間」に於いて開催されました。

本年の祝賀演奏は藤沢日本舞踊協会の花柳小喜代さんによりお正月の祝い曲である義太夫「万歳」の踊りが披露されました。

当日は同じ時間帯に「湘南藤沢市民マラソン姉妹都市訪問団歓迎交流会」が開催されており、鈴木市長他ご来賓の皆様が出席されていた為、ご来賓のご祝辞は遅れてご来席された午後二時過ぎから頂戴する結果となりました。

本年度のご来賓は鈴木市長、加藤市議会議長、平岩教育長、石井みらい創造財団理事長、神原生涯学習部長、横田文化芸術課長の皆さまでした。

ご来賓のご挨拶が遅れた為、各協会の紹介を繰り上げて実施し、最後は例年通り「カラオケ」で盛り上がりました。

予定の十五時三十分、文団連森中副会長の中締めを以って、余韻を残して閉会しました。



(中谷哲夫 記)

令和元年度 藤沢市文化団体連合会役員

- 顧問 唐木信允(美協)
- 顧問 宇佐美美泉(書道)
- 会長 長田華鳳(華道)
- 副会長 森中志水(邦楽)
- 副会長 田口迪子(茶道)
- 事務局 間瀬游泉(書道)
- 会計 中谷哲夫(謡曲)
- 監事 田代みつ子(民謡)
- 監事 久松如陽(三曲)
- 常任理事 坂野岳曉(吟詠)
- 常任理事 八ツ橋博美(美協)
- 常任理事 花柳小喜代(舞踊)
- 常任理事 松永耕作(雅楽)
- 常任理事 加藤径石(書道)
- 理事 稀音家六次(邦楽)
- 理事 川添遊山(三曲)
- 理事 青柳登喜男(民謡)
- 理事 木村明光(華道)
- 理事 黒田節子(謡曲)
- 理事 西川光栄(舞踊)
- 理事 楠山昭風(吟詠)
- 理事 川島淳(美協)
- 理事 富田誠子(茶道)
- 理事 永井浩詞(雅楽)

編集後記

令和になり、新たな気持ちで藤沢文化56号を発行させていただきました。文団連は伝統を重んじてチャレンジの年にしていきたいです。(田口迪子 記)

題字 林 如巖
印刷 神奈川印刷株式会社